

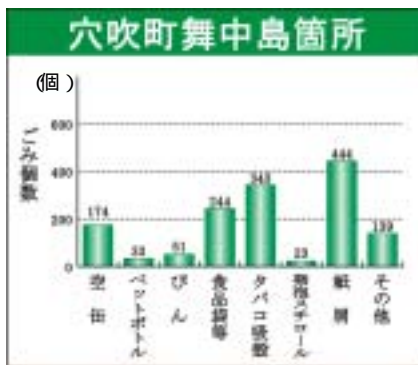
7 - 4 利用の問題点

吉野川では、捨てられるごみが増加しています。また、河川利用形態の中には、思わぬところで生物の生息環境へ影響を与えているものがあります。これらの問題は、利用者のモラルに委ねられています。吉野川の美しさと豊かな自然を守るためには、利用者の環境に対する意識をさらに高めていくことが課題です。

吉野川では、利用者の増加やモラルの低下に伴って、捨てられるごみが増加しています。冷蔵庫やテレビなどの電気製品や車など、悪質な不法投棄、車両投棄がみられます。また、近年のアウトドアのブームにより、4WD等の車が中州まで侵入しているため、コアジサシなど、吉野川に生息する生物等の生息環境への影響が懸念されています。

吉野川には、河川敷や水際等に多くのごみが捨てられています。河川清掃活動では、河川のごみランキング調査しています。その結果、ごみの個数では「タバコ吸殻」が最も多く、次いで、「紙屑」、「空缶」、ビニール袋などの「食品袋等」の順になっています。こうしたごみは、住民の日常の生活から出てくるものがほとんどです。紙屑や空缶などは、分解されて土に戻るまでに多くの年月を要します。これらのごみを減らすため、一人一人のモラルの向上が求められています。

吉野川ごみランキング調査の結果 (H12.7)



地域住民やボランティア等による河川清掃活動が行われています。



吉野川では、悪質な不法投棄や車両投棄がみられます。そのため、定期的な監視とともに、警察と協力して夜間パトロールを実施しています。

また、車両投棄については、原因者負担を原則にしています。所有者に連絡し、投棄車両を移動してもらおう努力を続けるとともに、一部行政代執行^{だいしつこう}*も実施しています。

(*行政代執行：河川法に基づく撤去指示・命令等にも関わらず、放置されたままの車両に対して、所有者が判明している車両については、行政代執行による撤去を実施します。行政代執行は、行政機関などが当事者に代わって強制的に命令を実行する制度です。行政代執行法に基づいて行われます。なお、撤去に要した費用は、所有者より徴収します。)



近年のアウトドアのブームにより、砂州に侵入する4WD等の車が増加しています。砂州には、卵を産む鳥（コアジサシ）等が生息しているため、これら吉野川に生息する生物への影響が懸念されています。



4WD車の侵入